

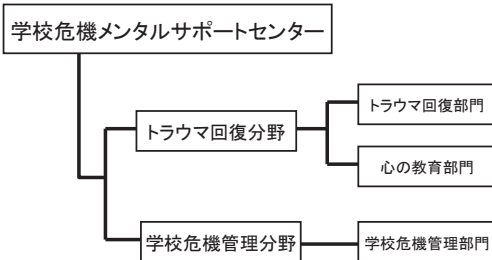
大阪教育大学及び同附属池田小学校における学校安全の取り組み

大阪教育大学
学校危機メンタルサポートセンター
藤田大輔

大阪教育大学附属池田小学校事件

- 2001年6月8日、附属池田小学校に1名の不審者が侵入し、8名の児童の命が奪われ、13名の児童と2名の教員が重傷を負わされた。
- 心や体に大きな傷を負わされた児童・保護者・教員に、現在も継続した長期にわたるケアが必要とされた。
- 2度とこのような事件が繰り返されないように、積極的な学校安全推進のための取り組みが必要とされた。

学校危機メンタルサポートセンターの分野構成



附属池田小学校における安全管理の取り組み

子どもたちの安全を維持・推進するのは、防犯機器の存在でなく、教職員や保護者・地域の人々の関心と実践である。



登校時の玄関(教職員)



事務室の受付(教職員)



不審者対応訓練(教職員)



普通救命講習(教職員)



登校立ち当番(保護者)



普通救命講習(保護者)



学校安全委員会(池田地区)



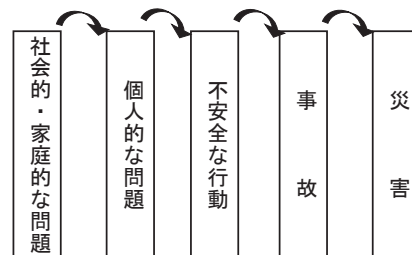
International Safe Schoolとは、スウェーデン王立カロリンスカ研究所に設置された「地域の安全推進を目指したWHO協働センター (WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion)」が行っている認証活動の一つである。

この活動は、既に安全な状態が完成している学校を認証する制度ではなく、明確な目標と根拠(傷害発生データ等)を基に、学校における安全への取り組みが、持続可能な状態にあると客観的に認められる学校を認証しようとする制度である。

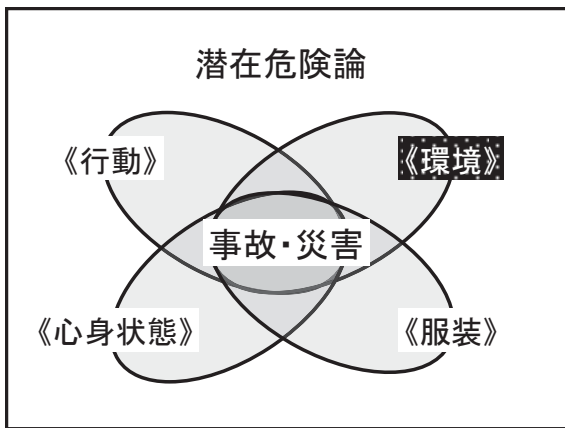
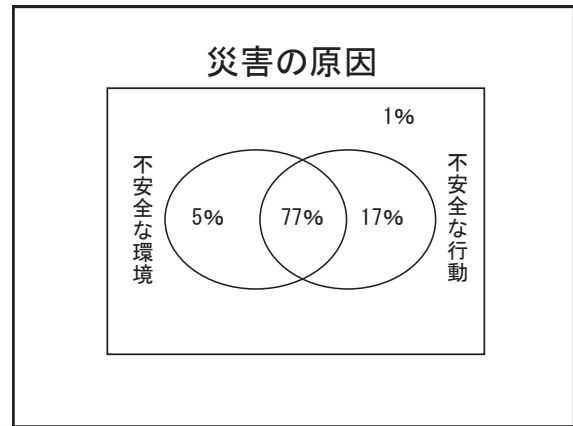
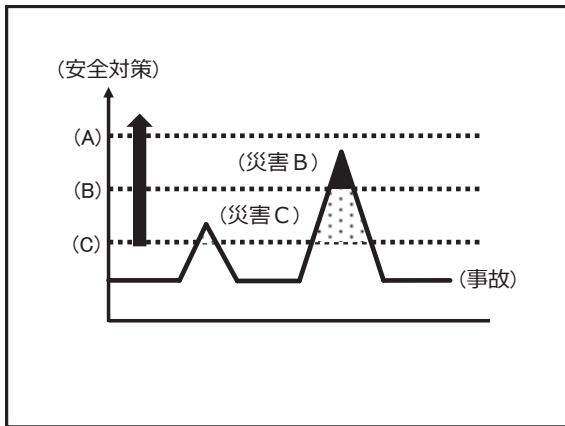
Accident prevention
(事故予防)
↓
Injury prevention
(傷害予防)

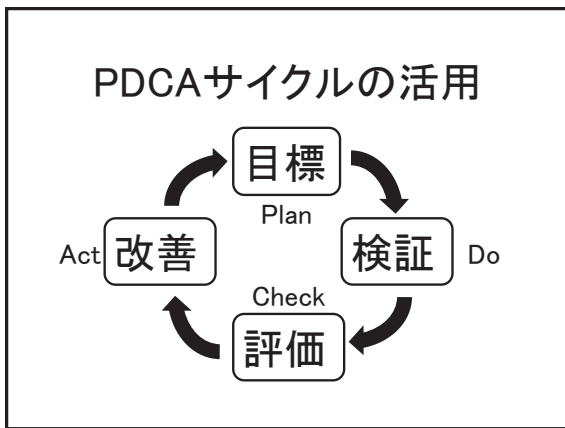
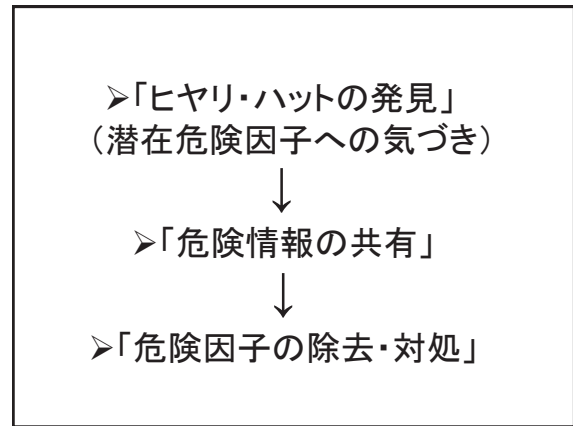
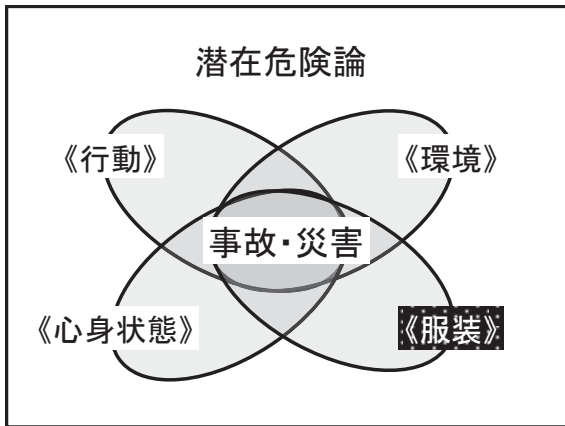
「ハインリッヒの法則」=「1:29:300」

死亡を含む重大災害が1件発生する場合、その陰には29件の軽傷の災害が起きており、更に300件の潜在的な事故、いわゆるヒヤリ・ハット(ニアミス)事故が発生している。



ハインリッヒのドミノ理論





附属池田小学校における 安全教育の取り組み

教育課程特例編成(「安全科」)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国 語	306	315	245	245	175	175
社 会	—	—	70	90	100	105
算 数	136	175	175	175	175	175
理 科	—	—	90	105	105	105
生 活	82(102)	85(105)	—	—	—	—
音 楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家 庭	—	—	—	—	60	55
体 育	102	105	105	105	90	90
安 全	34	35	35	35	35	35
道 徳	34	35	35	35	35	35
外国語活動	—	—	—	—	35	35
総合的な学習の時間	—	—	35(70)	35(70)	35(70)	35(70)
特別活動	20(34)	20(35)	35	35	35	35
総授業時数	850	910	945	980	980	980

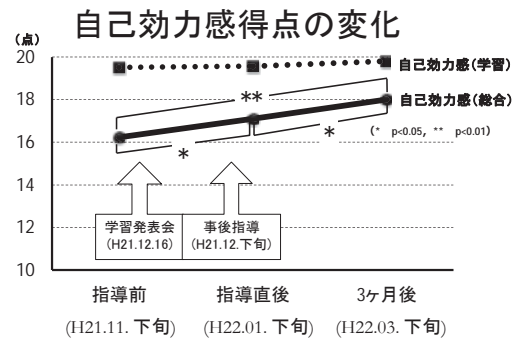
※表中の()内の数字は、学習指導要領に示されている基準授業時数

安全科カリキュラムの概要

学習領域	主な学習内容
防犯意識	安全マップの作成
防犯スキル	防犯ブザーや防犯機器の使い方
生活安全	学校での休み時間の過ごし方、学校生活のマナー
交通安全	登下校時の交通安全マナー、正しい自転車の乗り方
災害安全	地震・火災からの避難、プール・海など水の事故の予防
命の実感	一次救命処置の学習、命のBystander



Google Mapを使った安全マップ学習 (3年生の事例)



児童の反応

危険を回避するために気付いたこと…

- 人の目が多いこと, 人の温かい気持ちを感じる所が安心。
- 私たちはあらゆる場所で, 施設だけでなく多くの人たちから守られている。

ソーシャルサポートとは

家族や友人や隣人などのように、個人の周囲に存在する人々から得られる有形・無形の支援や援助をいう。

子は親の鏡(一部抜粋)

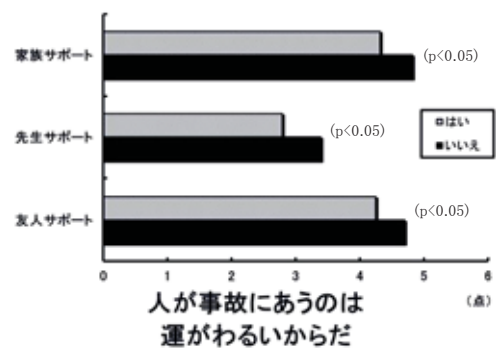
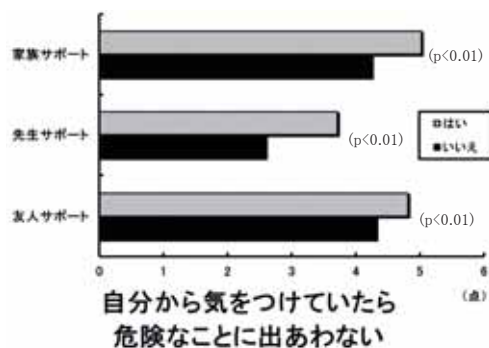
(ドロシー・ロー・ノルト 作)

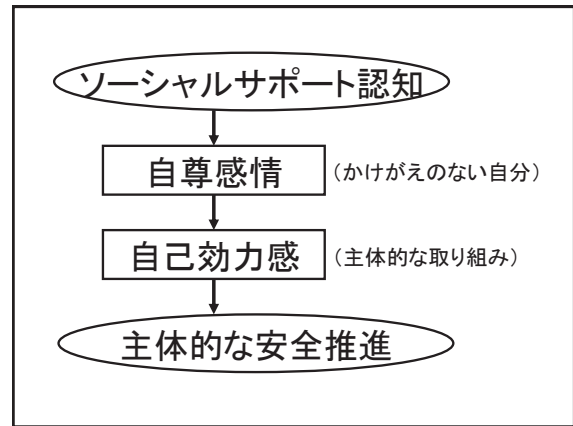
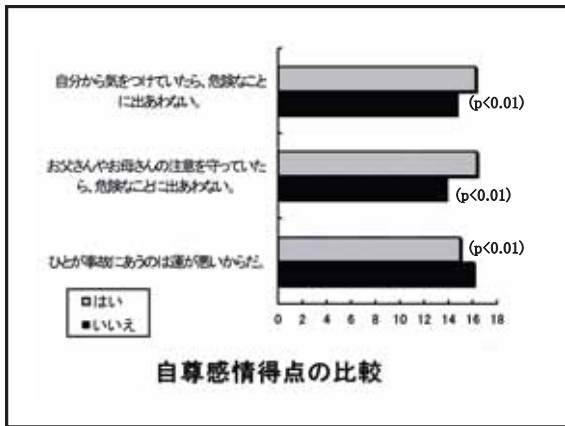
励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる
 広い心で接すれば、キレる子にはならない
 誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
 見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
 守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

ソーシャルサポートのストレス緩衝効果

虚血性心疾患, 糖尿病,
 脳血管障害, 消化性潰瘍,
 うつ病などで

2次予防・3次予防効果が確認





独立行政法人 科学技術振興機構
 社会技術研究開発センタープロジェクト研究

犯罪からの子どもの安全を
 目指したe-learningシステムの開発
 (H19年10月～H24年9月: 予定)

プロジェクト代表: 藤田大輔

e-learningシステムの特徴

保護者と地域の参加が可能

- 学校と家庭間の認識の共有
- 保護者の介入による自尊心、自己効力感の向上

*保護者のコメント入力画面

*保護者のコメントの確認(教員画面)

教材イメージ

教材イメージ

疾病発生論
 危険発見論

↓

犠牲者非難
 victim blaming

危険発見論 ↓ 安全共感論

実証実験の様子
大阪教育大学
附属池田小学校
(4年生)



1回目
(e-learning学習)



2回目
(ふりかえりの授業)

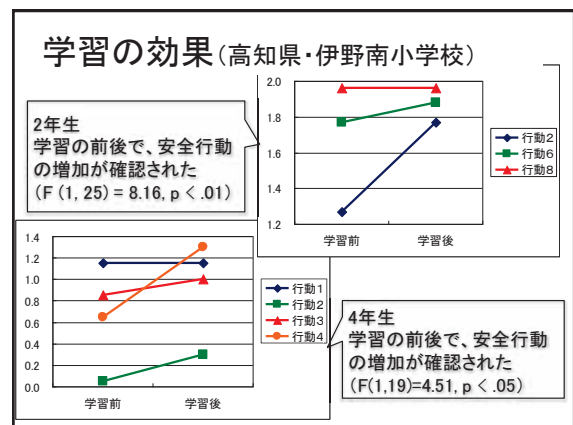
実証実験の様子
高知県・伊野南小学校
(2年生)



1回目
(e-learning学習)



2回目
(ふりかえりの授業)



大阪教育大学における 学校安全の取り組み

- 教員養成課程に
教職専門科目「学校安全」を必修化
(平成19年度入学生～)
- 附属11学校園に
「学校安全主任」を設置し、毎年
「学校安全主任講習会」を開催
(平成16年度～)